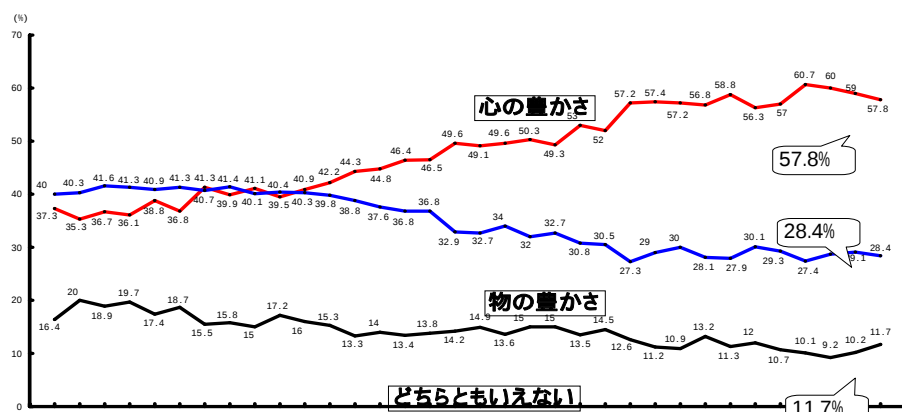




今後心の豊かさに重きをおきたいと考える人は増えている。

(注) 心の豊かさ → 「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活することに重きをおきたい」
物の豊かさ → 「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」

2. 文化財の保存・活用、芸術の創造に資する科学技術

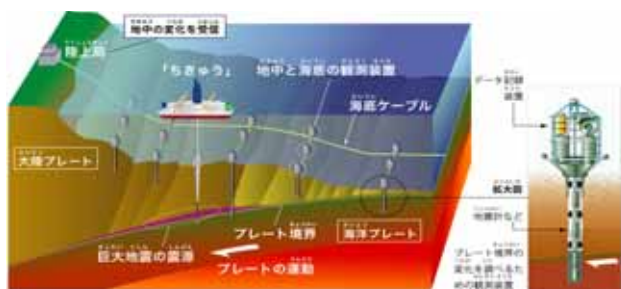
- 科学技術は文化財の保存修復や技能の保存・継承に大きく貢献している。また、情報・通信技術の活用により、いわゆるメディア芸術が新しい芸術分野を創出しており、デジタルアーカイブ技術は遺跡記録や文化財の保存・普及・活用に重要な役割を果たしている。

現代によみがえる源氏物語絵巻



3. 知的探究心にこたえ、知的価値を創造する科学技術

「ちきゅう」とプレート境界



- 科学技術は、宇宙、海洋等のフロンティアの解明、遺跡の探索等にも役立っている。

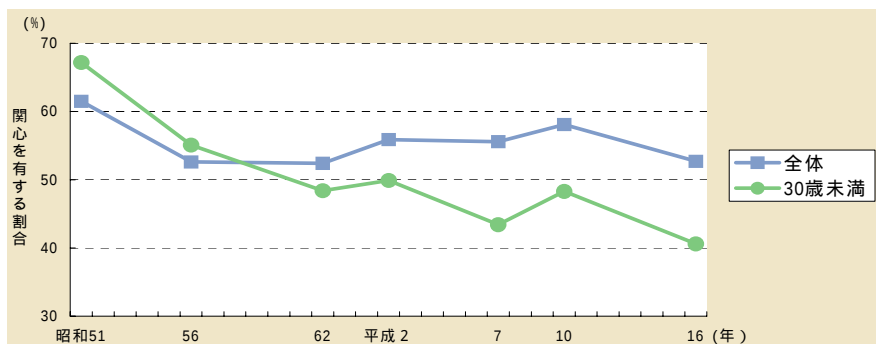
第4節 人々とともにある科学技術とそれ

1. 人々とともにある科学技術

- 科学技術による新たな社会の実現に、国民ひとりひとりの科学技術に対する理解、関心が不可欠。

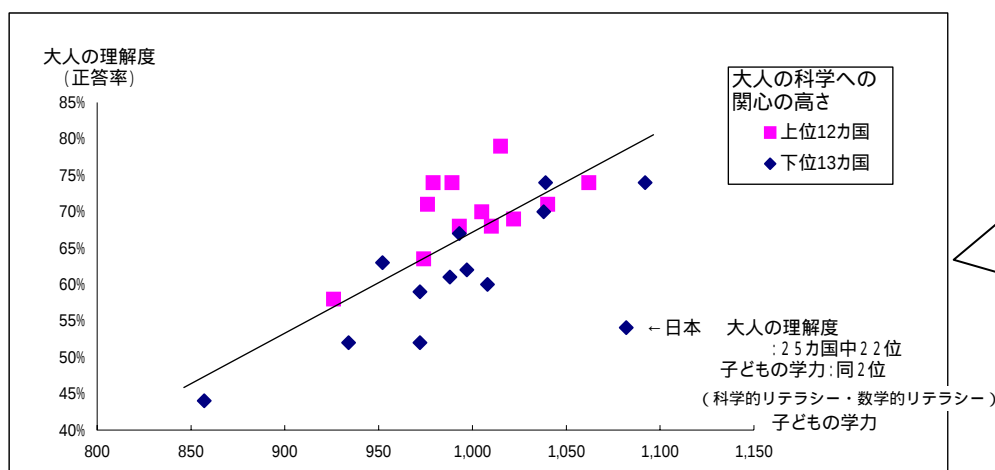
(現状)

科学技術のニュースや話題への関心



近年、若者を中心に
関心が低下

大人の科学技術に関する理解度と子どもの学力



国際的に最上位レ
ベルにある子ども
の学力とは対照的
に、大人の科学技
術リテラシーは低
水準

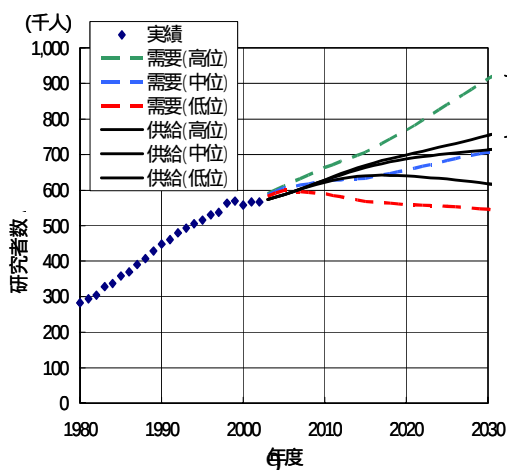
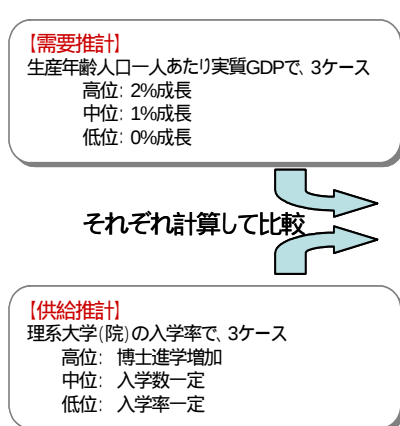
(今後の課題)

- ・研究者・技術者のアウトリーチ活動の推進、科学技術に触れ、体験・学習できる機会の拡充
- ・初等中等教育における理数教育の充実
- ・研究者・技術者倫理

2. 科学技術を支える人材

- 今後、科学技術の創造、活用に携わる様々な人材の役割の重要性が一層向上。
- 一方、少子高齢化が進む中で、研究者・技術者の供給不足の懸念。

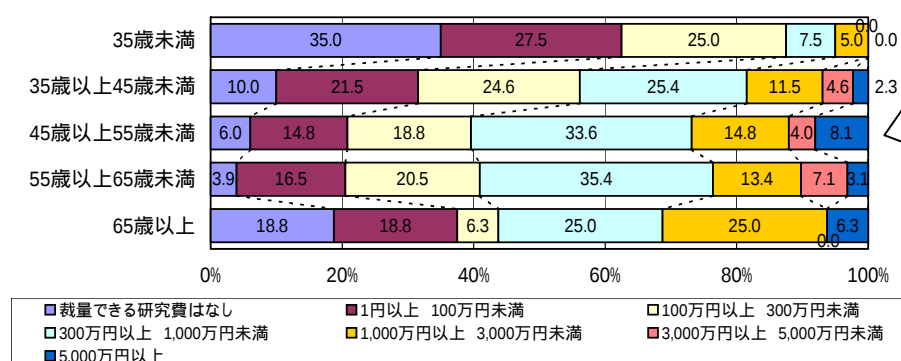
研究人材の将来需給予測



研究者、技術者につ
いては、将来、
経済成長率や産業
構造の変化によっ
ては供給が不足す
る可能性がある

- 産学官連携人材、科学技術コミュニケーター等多様な役割が一層求められる。
- 年齢、性別、国籍にかかわらず多様な人材が活躍できる環境整備が必要
- ・若手研究者：自立的に研究活動を行い、活躍する機会の付与

自分の裁量で使用、配分できる研究費の年額(年齢別)



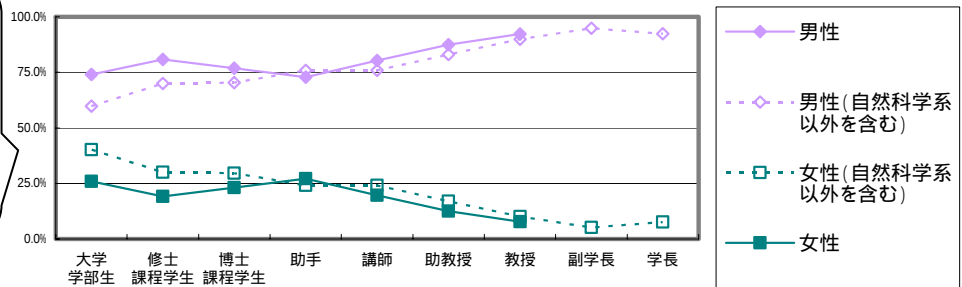
優秀な若手研究者が自立的に研究を行おうとしても必要な研究費が確保しにくい状況。

- ・ 高齢研究者：優れた高齢研究者が研究を続けられる機会
- ・ 女性研究者：研究と出産・育児等の両立支援、採用、昇進・昇格における積極的な登用（数値目標の設定等）、高等学校卒業前の女子に対する興味、関心の喚起・向上

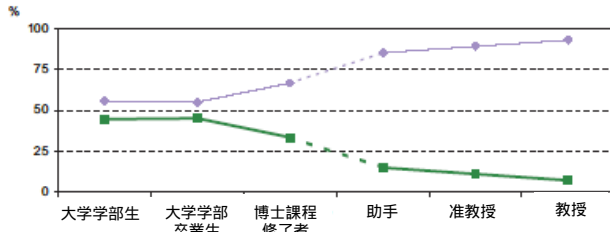
大学等の自然科学系分野における学生、教員に占める女性と男性の割合(国際比較)

キャリア全般における女性の採用・昇進が少なく、また、大学入学時点において既に女性の割合が男性に比べ大きく下回っている。

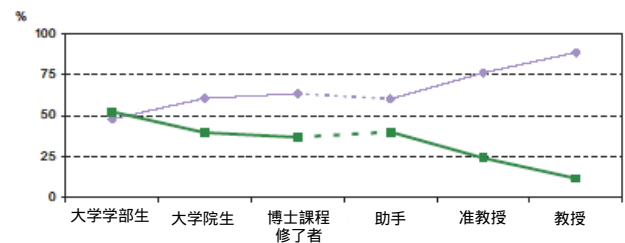
日本(平成17年)



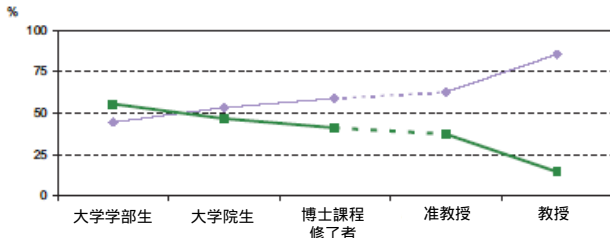
ドイツ(2000年)



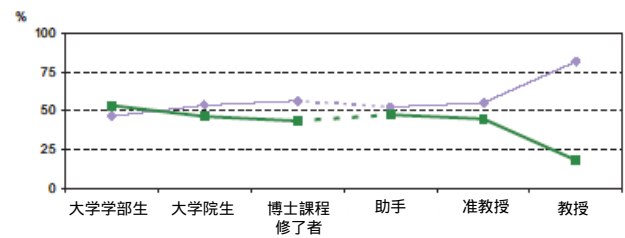
英国(1999年)



フランス(1999年)



フィンランド(1999年)



- ・ 外国人研究者：住宅確保、子どもの教育等生活環境の整備、出入国管理制度の見直し等の推進

第3章 これからの科学技術に求められるもの

【ポイント】

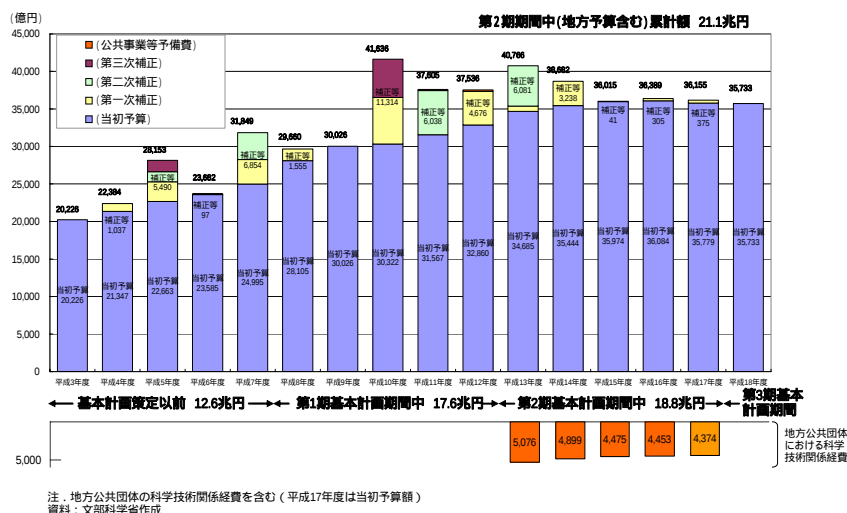
- ・ 平成18年3月に策定された第3期科学技術基本計画では、少子高齢化の急速な進展等による社会の変化や地球規模の課題等に対応するため、社会・国民に支持され、成果を還元する科学技術を目指し、人材育成と競争的環境を重視することを基本姿勢として、科学技術の戦略的重点化や科学技術システム改革、理解増進活動等を実施することとしている。
- ・ 諸外国に先駆けて人口減少・少子高齢化という課題の解決を迫られる課題先進国となった我が国は、活力ある豊かな社会を実現することにより、課題解決の先進国を目指すべきであり、科学技術はこの点で大きく貢献することが期待される。

1. 背景と基本理念

- 第1期基本計画・第2期基本計画を通じ、政府研究開発投資の拡大、科学技術システム改革が進んだ。第3期基本計画においては第2期基本計画で掲げる3つの理念を継承しながら6つの大目標を明示。政府研究開発投資の総額規模はGDP比率で欧米主要国の水準を確保するため約25兆円が必要。

政府研究開発投資の推移（予算ベース）

3つの理念・6つの大目標



3つの理念

- ・ 人類の英知を生む
- ・ 国力の源泉を創る
- ・ 健康と安全を守る

6つの大目標

- ・ 飛躍知の発見・発明
- ・ 科学技術の限界突破
- ・ 環境と経済の両立
- ・ イノベーター日本
- ・ 生涯はつらつ生活
- ・ 安全が誇りとなる国

2. 第3期科学技術基本計画の目指すもの

- 科学技術の戦略的重点化
 - ・ 基礎研究の推進
 - ・ 政策課題対応型研究開発における重点化
(例)「戦略重点科学技術」の選定(国家基幹技術等)
- 科学技術システム改革
 - ・ 人材の育成、確保、活躍の推進
 - ・ 科学の発展と絶えざるイノベーションの創出
(例)・競争的資金及び間接経費の拡充
・ 私立大学の研究教育機能の活用
・ 研究開発管理システムの構築
 - ・ 科学技術振興のための基盤の強化
 - ・ 国際活動の戦略的推進
- 社会・国民に支持される科学技術
- 第3期基本計画においては人口減少・少子高齢化を乗り越えて持続的な発展を可能にするのは国力の源泉としての科学技術に取り組むことが不可欠。子どもか

ら高齢者まで国民を悩ます病を克服し、誰もが生涯元気に暮らせる社会を実現することなどの政策目標を達成し、科学技術が世界・社会・国民に貢献。

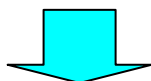
第2節 これからの日本と科学技術

1. 活力の源泉としての科学技術

- 我が国では、経済が持続的な成長過程に移行する兆しを見せる一方、人口減少・少子高齢化が進展し、労働力人口の減少が懸念されているほか、国際競争の激化、大規模自然災害やテロの発生、環境問題等の地球的課題など、克服すべき多くの課題を抱えている。
- 「我が国における科学技術の状況と今後の発展の方向性」（平成17年5月科学技術政策研究所）
 - ・ 安全・安心に関わる科学技術の重要度の増大
 - ・ 多くの分野にわたる学際的研究領域や分野間融合の推進
医療・生活の質の向上、より便利で安全な社会へ
- 科学技術は単独で全ての課題に対して解決策を提供するものではないが、貢献できる一つ一つの課題に対して解決策を提供していくことにより、我が国の社会的・経済的・文化的活力の源泉となる。

2. 課題解決の先進国へ

我が国は諸外国に先駆けて人口減少・少子高齢化という課題解決に迫られる



課題解決の先進国へ